

講義要項

科目	統計学	担当講師	
対象学年	第3学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	今日の臨床では、得られたデータを客観的に読み解き、治療を実践できる力が求められている。また、研究においても検証にあたり統計学の知識が必須である。本科目では、データの読み取りに役立つ統計学の基本を学習する。		
目標	リハビリテーションの臨床研究や効果判定に用いられる基礎的な統計手法を理解し、科学的根拠に基づく意思決定に活用できる。 1. 医療分野における統計学の意義を理解する 2. 統計学上の用語とその特性を理解する 3. 統計ソフトの基本的な操作とデータの読み取りができる 4. 仮説の提示とその証明が、手順にそって実施できる		
教科書	よくわかる医療統計 対馬栄輝 東京図書		
参考書	SPSSで学ぶ医療系データ解析 対馬栄輝 東京図書 他、参考書籍は随時紹介		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	授業毎の予習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。 ※ノートPCを持参(電源を取る延長コードも持参) √ および四則混合計算ができる電卓を使用する。 講義と演習を組み合わせることで授業を展開するので、積極的な参加を望む。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	統計学の基礎①:母集団と標本 統計用語を知る	講義
2	事例学習①:尺度・特性値・グラフ	講義
3	事例学習②:推定と検定の基礎(標本・正規分布・平均)、帰無仮説と対立仮説	講義
4	事例学習③:2標本の差の検定 パラメトリック検定 (仮説・p値・危険率)	講義
5	事例学習④:パラメトリック検定(t検定・z検定)	講義
6	事例学習⑤:ノンパラメトリック検定(U検定・Wilcoxon検定)	講義
7	事例学習⑥:分割表の頻度の比較(χ 二乗検定)	講義
8	統計的検定・統計解析の活用	演習・実習
9	統計的検定・統計解析の活用	演習・実習
10	統計的検定・統計解析の活用	演習・実習
11	統計的検定・統計解析の活用	演習・実習
12	事例学習⑦:2つのデータ間の関連(相関・回帰)	講義
13	事例学習⑧:3つ以上のデータ比較(分散分析)	講義
14	事例学習⑨:多重ロジスティック回帰分析	講義
15	事例学習⑩:信頼性係数・診断の指標	講義

講義要項

科目	医学概論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	医療人になるものとして、その自覚と基本的な態度を身につける。 また、現在の医療情勢についての理解を深め、将来の職場の現状を知る。 そして対象者の心理に気を配り、共感できるような態度を身につける。		
目標	1. 医療人としての基本的な態度と教養を身につけることができる 2. ヒトの心の働きについて説明できる		
教科書			
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	医学の歴史と医学教育の変遷および医療人としてのプロ意識	講義
2	医学における生命倫理(人の尊厳・脳死・安楽死・臓器移植)	講義
3	医療人としてのモラル・ジレンマストーリー・傾聴的態度	講義
4	診断の流れ(根拠に基づく医療・IC)・医療記録と記録管理	講義
5	医療の質(医療人としてのサービス精神・患者満足)	講義
6	最先端医療	講義
7	進化医学と再生医療の立場から見たヒトの健康と生命倫理	講義
8	終末期医療(死に行く人の医療)	講義
9	基礎心理(心理学とは)	講義
10	基礎心理(パーソナリティー:イド・エス・リビドー)	講義
11	基礎心理(自己概念)	講義
12	基礎心理(知能・学習)	講義
13	基礎心理(条件付け)	講義
14	基礎心理(記憶)	講義
15	基礎心理(動機付け)	講義

講義要項

科目	情報処理技術論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	情報処理の技術を学び、収集した多量の情報を目的に応じた形に加工するための方法を学ぶ。 コンピューターを駆使した文章作成方法を学ぶ。		
目標	リハビリテーション過程や研究などで得られた情報を有効に活用できるように、以下の目標を掲げる。 1. 情報の種類に応じた分類、整理ができる 2. 情報の特徴に合わせた演算方法が選択できる 3. コンピューターを使用して情報の整理ができる 4. 整理した情報を元に、コンピューターを使用して文書の作成ができる		
教科書	適宜資料を配布する		
参考書	「できる」シリーズ インプレス		
学習評価	提出課題による評価60%以上で合格とする。 ただし、平常の授業態度、出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	情報とは	講義・演習
2	情報の種類と処理法	講義・演習
3	処理法各論①	講義・演習
4	処理法各論②	講義・演習
5	情報処理1 エクセルを用いた情報処理①(データ集計)	講義・演習
6	情報処理1 エクセルを用いた情報処理②(統計処理)	講義・演習
7	情報処理1 エクセルを用いた情報処理③(表の作成・グラフ化)	講義・演習
8	情報処理1 エクセルを用いた情報処理④(表の作成・グラフ化)	講義・演習
9	情報処理2 ワードを用いた処理①(文書作成)	講義・演習
10	情報処理2 ワードを用いた処理②(文書作成)	講義・演習
11	情報処理2 ワードを用いた処理③(レポート作成・表図の挿入)	講義・演習
12	情報処理2 ワードを用いた処理④(レジュメ作成・段組みなど)	講義・演習
13	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション①	講義・演習
14	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション②	講義・演習
15	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション③	講義・演習

講義要項

科目	外国語	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	医療現場で働く者として、また生涯にわたり医療を学び続ける者にとって、英語の理解、活用が必要である。 この科目では、平易な日常英会話を学ぶと共に、国際社会の中で積極的に英語でのコミュニケーションを実施していく姿勢を学ぶ。 また、療法士として必要となる、医療に関わる英語(英単語)を学ぶ。		
目標	1. 平易な日常英会話のレベルにおいて、英語でのコミュニケーションが実施できる 2. 療法士として必要となる、医療に関わる英語(英単語)を理解する		
教科書	医療職が覚えておきたい運動・動作の英語表現 医学書院 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語 南雲堂		
参考書	各自辞書を準備して授業に臨むこと		
学習評価	筆記及び口頭試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション Lesson1	講義
2	Lesson2	講義
3	Lesson3	講義
4	Lesson4	講義
5	Lesson5	講義
6	Lesson6	講義
7	Lesson7	講義
8	Lesson8	講義
9	Lesson9	講義
10	Lesson10	講義
11	Lesson11	講義
12	Lesson12	講義
13	Lesson13	講義
14	Lesson14	講義
15	Lesson15	講義

講義要項

科目	自然科学概論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	人間は自然の一部であり、リハビリテーションは人間を扱う職業となるので、自然科学の基礎的知識を身につけることは極めて重要である。さらに自然の事物・現象について理解を深めるとともに、自然の仕組みを解き明かす方法も学ぶ。		
目標	自然科学の本質、科学を成り立たせている原理や規則性を理解し、専門科目への土台を築いていく。		
教科書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 生物学:細胞の基本構成・細胞膜の平衡を保つメカニズム	講義
2	生物学:細胞膜を介した物質の輸送	講義
3	生物学:細胞分裂(減数分裂含め)・タンパク合成	講義
4	生物学:遺伝の法則	講義
5	生物学:胚葉の分化と器官形成	講義
6	生物学:神経の種類・筋収縮のメカニズム	講義
7	生化学:化学組成・イオン	講義
8	生化学:化学組成・電解質	講義
9	生化学:pHの調整(酸・塩基)	講義
10	運動学:力学の基礎(ベクトル・モーメント・トルク)	講義
11	運動学:重心・支持基底面・安定性の要素	講義
12	運動学:仕事とエネルギー	講義
13	運動学:テコの原理	講義
14	運動学:身体における3つのテコ	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	公衆衛生学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	WHOでは、公衆衛生学を次のように定義している。 「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。」 人間社会を取り巻く社会環境の諸要因を理解し、保健・医療・福祉領域における情報指標の捉え方および情報収集能力を習得する。		
目標	公衆衛生学とは何か説明できる。 1. 健康、健康増進とは何か説明できる 2. 感染症、疾病予防、生活習慣予防について説明できる 3. 公衆衛生に対しての国の役割を説明できる 4. 公衆衛生に対しての市町村の役割を説明できる 5. 公衆衛生に対して、理学療法士、作業療法士が何が出来るか説明できる		
教科書	国民衛生の動向 厚生統計局		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	公衆衛生学とは	講義
2	健康の指標	講義
3	感染症	講義
4	感染症とその予防	講義
5	食品保健と栄養	講義
6	生活環境論の安定	講義
7	地域保健活動	講義
8	母子保健	講義
9	学校保健	講義
10	生活習慣病	講義
11	精神保健福祉	講義
12	産業保健	講義
13	医療制度	講義
14	健康教育	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	基礎学習論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	<p>本校ではグループワークなど学習者主体の講義が多い。そのような講義形式に慣れていない学生や異文化である医療分野の学習に対してリアリティショック受け兼ねない。また、医療人としてのプロ意識を持つためには社会人基礎力やコミュニケーション能力も重要と考える。 この講義では学習方法の確立と実践的なコミュニケーション能力を身につけていく。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な学習方法を身につけ、今後の学習に役立てることができる 2. 社会人基礎力を理解し、内省力を身につけることができる 3. 対象者との望ましいコミュニケーションの方法が説明できる 4. 医療職とのコミュニケーションの方法が説明できる 		
教科書	<p>大学生のためのリサーチリテラシー入門 山田剛史／林創 ミネルヴァ書房 PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド 山口美和 医学書院</p>		
参考書			
学習評価	<p>提出課題及び筆記試験合わせて60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p>		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・学習方法論①	講義
2	学習方法論②	講義
3	学習方法論③	講義
4	学習方法論④	講義
5	学習方法論⑤	講義
6	社会人基礎力	講義
7	コミュニケーションスキル①(総論)	講義
8	コミュニケーションスキル②(自己理解)	講義
9	コミュニケーションスキル③(観察力・傾聴力・伝達力)	講義
10	コミュニケーションスキル④(医療面接の方法)	講義
11	コミュニケーションスキル⑤(他職種との関わり方)	講義
12	コミュニケーションスキル⑥(社会人としてのマナー)	講義
13	演習①	演習・実習
14	演習②	演習・実習
15	演習③	演習・実習